



安倍晴明と井戸

その1 安倍晴明



はじめに
歴史民俗学の見地から安倍晴明を研究した繁田信一氏によれば、「晴明」の正しい読み方はわからないといえます。私たちのよく知る「アベノセイメイ」のほか、「ハルアキ」「ハルアキラ」「ハレアキラ」と、どれも確証のある読み方ではないようです。

1980年代に発表された夢枕獏氏の小説および、それを原作とした岡野玲子氏のマンガによって巻き起こされた「陰陽師ブーム」によって、安倍晴明はだれもが知る平安時代のスーパーヒーローとなりました。しかし、陰陽道の秘術をもって鬼や魔物を退治する物語の「セイメイ」は、実在した安倍晴明とは似て非なる虚構の人物です。

安倍晴明をはじめとする陰陽師たちの研究は、明治末から細々と始まり、「陰陽師ブーム」をうけて活性化し、限られた史料のなかから、少しずつ彼らの実態がわかってきました。そうした研究者のうち、高原豊明

平安時代

8世紀末に平安時代をむかえると、平安京はかつてないほど成熟した都市として発展しました。すると不思議な現象がおきました。それまで粛々と行われていた国家規模の穢れを祓う行事である「大祓」に、穢れに敏感なはずの平安貴族たちが関心を示さなくなったのです。

それは平安京という大都市生活者の彼らが、国家よりも個人としての穢れや障りに重きを置くようになったからだと考えられています。こうした風潮を感じ取った陰陽師たちは、「国家のため」のみならず「個人のため」の占い師・呪術師に職域を拡張、役職名ではなく職能人として「陰陽師」と呼ばれていきます。そして、安倍晴明はまさにこの平安時代中期に活躍したのです。

不遇な晴明

その安倍晴明は、同時代の史料に「天文得業生」という身分で初めて登場します。天文得業生とは、天文学の学生のことであり、このとき晴明は40歳でした。また記録上「天文博士」という身分に昇進したことがわかるのは52歳のことで、若くクールな天才陰陽師という物語のイメージとはかけ離れています。では、なぜ「傑出した陰陽師」というイメージが定着したのでしょうか。

陰陽道第一者と長寿

安倍晴明が生きた平安時代中期には、国家の組織であるはずの陰陽寮

氏は全国に散らばる安倍晴明伝承を収集、分類しました。その結果、314カ所の伝承のうち、井戸に関するものが45カ所と最も多く、全体の14.3%にもおよんだと言います。

小松和彦氏の見解

民俗学者の小松和彦氏は、安倍晴明伝承の広がりについて、下級の陰陽師系の宗教者たちが安倍晴明を神格化し、自分たちをその継承者とし



晴明井(京都市上京区 晴明神社内)晴明が念力で湧出させたという(2004年撮影)

は、「陰陽寮に所属する官人」および「かつて陰陽寮に所属した官人」たちによる官人職能者集団によって統制されていたと考えられています。この頃、「陰陽道」は、その集団を指す言葉としても用いられており、その中でも貴族として最も高い位階をもつ者が「陰陽道第一者」として重きをなし、天皇からの占いや呪術の依頼を受け、名声を得る機会に恵まれました。

安倍晴明が陰陽道第一者になれたのは、才能もさることながら、陰陽道の大家だった賀茂忠行・保憲親子に師事し、彼らに引き立てられたことが要因と考えられます。しかし、それでもその栄光は、60歳を過ぎてからのことで、天皇に対する裨に効験があったとして正五位上に加階されたのが73歳のことで、彼のなよりの武器は85歳まで生きたという、当時としては異例の長寿に他ならなかったのです。

フリーランサー晴明

また、長徳元年(995)の75歳のおりには、陰陽寮から違う役所に異動していますが、天皇や大貴族を相手とする陰陽師としての活動はとどまりませんでした。さらに何事も先例通りに行うという当時の常識を覆し、天皇が新造内裏へと遷る際に通常行う「散供」とは異なる「反閉」という呪法を行ったり、天皇の母が死去したため停止命令がでていた、疫鬼を祓う「追儺」の儀式を自宅で執り行い民衆に喝采されるなど、陰

て祭祀・呪術活動に根拠を与えようと、晴明伝説を各地に語り伝えたと推測した上で、次のように述べています。

「留意したいのは、晴明ゆかりの旧跡の多くが、晴明が見出したということである。おそらく彼らの多くは井戸掘りや土木工事にも長けていたのだろう」

小松氏のいう安倍晴明伝承を広め、「土木工事にも長じた下級の陰陽師」とはどのような人たちだったのでしょうか。陰陽道の歴史と絡めて見ていきたいと思います。

陰陽道とは

まず、陰陽師たちの駆使する陰陽道とは、最近の研究によって古代中国の陰陽・五行説、天文説、道教や密教それに日本の神祇信仰を取り混ぜながら、日本独自に作り出された思想、祭祀法、呪術であったことが明らかにされています。そして、そのベイスとなった中国の思想は、6世紀半

陽師としての自分をさらにアピールしています。

つまり安倍晴明は陰陽道第一者の立場を利用して、亡くなる直前までフリーランスの陰陽師として名声を高めていき、彼の死後はその威を受けた子孫たちが、師匠筋の賀茂氏とならび陰陽寮の要職を世襲するようになり、陰陽道の双壁として並び立つのです。



一條辰橋(京都市上京区 晴明神社内)。平成7年(1995)まで実際に使用されていた。安倍晴明はこの橋の下に式神を隠していたという(2004年撮影)

異能伝承の誕生と土御門家

とはいえ、平安時代後期には、まだまだ賀茂氏が安倍氏を圧倒しており、その他、密教僧侶など他教の者も陰陽師の職域をおびやかす競合相手となりました。

この状況を打破するべく、5代目にあたる安倍泰長は貴族たちに対し、初代晴明の験力や、晴明の故地である私宅の霊験譚を吹聴して信頼を得ようとした。

さらに、「推条掌をさすがとし

ばに日本へもたらされました。その後、7世紀半ばになると、壬申の乱に勝利して即位した天武天皇は、律令制をひいて中央集権国家の確立を目指しますが、この折に「陰陽寮」という組織が設けられ、陰陽道形成の基盤が作られました。

奈良時代

奈良時代に定められた律令によれば、陰陽寮は「国家や天皇に関わる占い」「天文観測とその結果による占い」「暦の作成」「時刻の測定・管理」を所管していました。そして「陰陽師」とはその組織の役職名の一つで、先に述べた「国家や天皇に関わる占い」や、宮殿や寺院の建立にあたって、土地の良し悪しの占いをする国家公務員だったのです。また、陰陽寮の司る学術などは国家機密と位置付けられ、門外不出とされていました。

つまり、奈良時代における陰陽師たちは、「国家のため」の占い師だったと言えます。

(占いに疑問の余地がない)と称えられ、「さすの神子」と呼ばれた6代目の泰親も、自らがあやつる陰陽術の比類なきことを、流祖である晴明に求め、その異能ぶりを伝えはじめたといえます。こうしたことが安倍晴明伝説の発祥につながっていると考えられており、後の世のスーパースターを生み出す発端になったのです。

このような子孫たちの努力の甲斐があり、室町時代にいたって將軍足利義満に引き立てられた14代目の安倍有世は従二位まで榮進し、流祖である晴明も果たせなかった国政を担う「公卿」に列するまでになりました。そして、その後、安倍氏は「土御門家」を名乗るようになり、江戸時代にはすべての陰陽師系宗教者を支配する権限が与えられるのです。

次回へ

さて、ここで話を平安時代中期に戻します。この頃、安倍晴明たち官人陰陽師とは別に、民間人でありながら陰陽師として活動する者たちが現れていました。国家機密であるはずの陰陽道が外部に漏れて久しいためとも、官人陰陽師たちとは全く別の呪術を使う者たちだったとも考えられており、小松和彦氏のいう「土木事業に長じた下級の陰陽師」とは、主にこうした人々の中から生まれました。そして安倍氏とは何ら関係のない彼らが、安倍晴明の伝承を各地に広める担い手となっていくのです。(つづく)

(文：江口知秀)